不易

講師に作家の 村上 龍氏

「教育・文化が果たす役割と未来」

福武教育振興財団設立20周年
福武文化振興財団設立10周年
設立記念講演会

モデレーター　フリーアナウンサー　遠藤　寛子　氏

●●●●●●●●●●●●●
第26号
平成19年1月15日
●●●●●●●●●●●●●
(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/
制作　(株)吉備人

11月30日ベネッセコーポレーション岡山本社地下大ホールにおいて、標記の記念講演会が約500名の参加を得て開催されました。

開催に当たり、福武總一郎財団理事長から「現代日本社会の状況を深く洞察し、経済・教育・文化等の分野で活躍され、さまざまなメッセージを発信されている人気作家、村上龍氏」について紹介されるとともに財団の果す役割について「文化・教育の持つ重要性は今まで以上に取沙汰されており、地域の個性・魅力を見出し、地域が一層活性化し元気になるようお手伝いしてゆきたい。」とあいさつがありました。

講演会は、村上・遠藤両氏による対談方式で行われました。概要は次のとおりです。

遠藤　村上さんご自身はどんな時に充実感を感じますか。

村上　私自身は充実感・達成感を感じたことがないのです。小説を脱稿した時とか、映画を撮り終った時にも充実感はなく、ようやく「終った」と言う感じです。

遠藤　現代日本社会の危機的な状況は、どんなところでしょうか。

村上　細かくあげると一杯あるので、危機的状況は、余り考えない方が良いと思います。高度成長時代に余りにも日本システムがフィットしたので、成功体験を忘れることが出来ないでいるのです。高度成長期には「勢い」とか「夢や希望」がありましたが、今もこの考え方に引きずられています。経済は、ダメになっているのではなく、まわりの環境がものすごく変化しているにもかかわらず変化に対応できていないのでいろんなことが機能していないのだと思います。

遠藤　村上さんは、東京に住んでおられますが、岡山から見ると東京はいつもカリカリと競争している状況におかれているのではないでしょうか。

村上　地方と大都市とどちらが良いか比べることは意味がないと思います。それぞれそこにしかないものがあります。どちらが好きかと言うことではないでしょうか。東京にしかない価値がある程度飽和状態に達して、この十年位前から地方都市が自分達のところにしかないものを見出して魅力的な何かを確立しようとしています。

遠藤　最近、何をやったら良いのか、どういう生き方をしたら良いのか分からないと言う若い人が多いのですが、親としては子どもにどうすればいいのでしょうか。

村上　生き方は、ある程度子ども自身で決めてゆかなければならないと思います。子どもは案外大人をよく見ています。背中を見せて育てよと言いますが、農業・漁業で生活していた時代と異なり、今は親の仕事を見る機会がなくサラリーマンの背中を見てもみな同じように見えます。親は子どもになって欲しいイメージを持っていないのではないでしょうか。「子どもが大人になるとは、自分の力で食べてゆけるようになることである。」と私は思います。そして出来れば好きなことをやって欲しい。子どもが目を輝かして生き生きして欲しい。わくわくして仕事をやって欲しい。愚痴を言っている姿は親として見たくないのです。

遠藤　大人が生き生きとした姿を見せるためには、何をすれば良いのですか。

村上　普通で良いです。大人が達成感を持って生きてゆけば特別なことをしなくても子どもたちにも分かるものです。

遠藤　幸せ・豊かさについてご意見をお聞かせ下さい。

村上　六本木ヒルズ族が代表するようなお金を中心とした価値観に唯一対抗できるものは文化です。文化は経済格差を補完するものだと思います。給料は少なくとも、例えば紫陽花の花を見るとか、音楽を聴く、絵画を鑑賞することで豊かな気持ちになることが可能です。お金だけで幸せや豊かな気持ちが得られるのではありません。

（大橋）

平成17年度文化活動助成対象者による

第9回文化発表会

福武文化振興財団は、平成18年9月14日「第9回文化発表会」を岡山プラザホテルで行いました。

昨年度文化活動助成を受けた64件の助成対象者のうち、19団体が1年間の成果を参加者約180名に披露いたしました。

ステージ発表では、「旭かげえ劇団めだか屋」による地元の民話「あまんじゃくの星とり」の実演、また「多自枯鴨神社棒遣い保存会」による衣装の展示や練習風景のビデオ上映等をはじめ、7団体が活動・調査について発表しました。

また、展示発表では、「鴨方拓本の会」による拓本の展示、岡山市少年少女発明クラブによる作品の展示などをはじめ、12団体がさまざまな工夫を凝らし、日頃の文化活動の様子を写真やパネル、作品等で出展しました。

展示会場で行われる懇談会では展示物についての説明やステージ発表についての感想など、発表者と参加者が互いに情報交換をしながら、和やかな雰囲気の中、活動の喜びや苦労について語り合いました。

（野間）

山田方谷研究会による発表

旭かげえ劇団「めだか屋」による発表

展示発表

◆ステージ発表◆

1　山田方谷研究会
　～山田方谷研究会設立の経緯～
2　旭かげえ劇団「めだか屋」
　～かげえ劇で伝承文化を地域に発信～
3　多自枯鴨神社棒遣い保存会
　～多自枯鴨神社棒遣い保存会のあゆみ～
4　こどものためのアートプロジェクト
　～「葉っぱのフレディいのちの旅」～
5　大朗読の会
　～詩の朗読は興行として成立するのか～
6　リトル・ミショナリー
　～マンカッパの村人に希望を～
7　芳明っ子文庫
　～芳明っ子シアター～

◆展示発表◆

1　鴨方拓本の会
2　特定非営利活動法人ココロの住人
3　備中神楽保存振興会
4　Western Piano　ムジカクラブ・グループ "風"
5　NPO法人 グリーンパートナーおかやま
6　岡山市少年少女発明クラブ
7　倉シック音楽と子どもをはぐくむ会
8　こくさいこどもフォーラム岡山
9　児島湖流域エコウェブ
10　妹尾CD制作実行委員会
11　中国二期会
12　四士の会

福武文化振興財団

平成19年度 助成の募集について

文化活動助成

（平成19年2月1日～3月31日）

福武文化振興財団は、岡山県内の文化活動・調査研究を助成し、岡山県の文化の発展に寄与することを目的としております。

●対象　岡山県内で文化活動・調査研究を行っている個人・団体。(ただし、単なる趣味や同好のグループは対象となりません。)

●助成額　1件の上限…30万円

●応募方法　市町村教育委員会等に配布した所定の申請書（HPからダウンロードすることも可能）に記入し、3月31日《必着》までに財団事務局あてに郵送。詳細は募集要項、当財団のHPを参照。

●問い合わせ　福武文化振興財団まで

福武教育振興財団
福武文化振興財団　HPアドレス
http://www.fukutake.or.jp/

【TV放映のお知らせ】

福武教育振興財団設立20周年を記念して、第16回海外教育事情調査は北欧フィンランドでした。学力世界一の国を訪問した調査団に、山陽放送テレビ（RSK）の種坤ディレクターが同行取材され、その模様が左記日程で放映されることになりました。ぜひご覧ください。

●放送日時
平成19年1月20日（土）14：00～14：54

●タイトル：明日の教育とは！フィンランドに学ぶ～～世界一の教育とは～

編集後記

◆明けましておめでとうございます。今年一年が皆様にとって希望と喜びに満ちた年になることをお祈り申し上げます。

◆昨年、教育財団は20周年、文化財団は10周年を迎えました。今年は新たな一歩を踏み出す始まりの年になります。

◆第25回教育講演会で講演されたライース氏は、とても美しい日本語でお話をされました。何気なく話している言葉ですが、同じ言葉を使うのであれば氏のように美しい言葉を発したいものです。

◆美しい言葉と豊かな表現力を得るには読書は最適かもしれません。今回視察したフィンランドは読書量も世界一だそうです。皆様は一日どれくらい本を読まれていますでしょうか。

◆両財団は、これからも岡山の教育と文化の発展と向上の一助となるよう努めて参りますので、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

（下山）

第25回教育講演会・第19回教育研究発表会

福武教育振興財団と岡山県教育振興会（共同主催）は、11月4日「岡山教育の日」の協賛事業として、教育講演会と教育研究発表会を開催いたしました。

「現代社会と日本の教育」

講師　株式会社　林原　専務取締役付
モハマッド ライース　氏

講師のモハマッド ライース氏は、1957年（当時14歳）に外交官の父親に伴われ来日されました。講演では、氏が当時受けられた日本の学校教育の良さやその後自分が親になって子どもを日本の学校へ通わせた時感じたこと、そして現在の日本の教育についての考えをお話しされました。氏があげられた問題の概要は次のようでした。

「日本の教育は、時間がたつにつれて産業社会で生かせる人材育成が重視され、その分倫理や道徳の授業時間が減少している。その結果子どもの精神教育が軽視され、『親を敬う』『嘘をつかない』『弱い者をいじめない』『物を大切にする』『人に感謝の念を持つ』などの基本的な教えが欠けてきている。

また教育の目的と手段の意味が混同することがある。例えば外国語教育では『読み、書き、話す』を教えるが、これは手段であり、その目的は外国語を活用して多様な分野で国際交流を広めていくことである。日本では試験に受かることが主な目的になっているため真の目的が不明瞭になってしまうだけでなく、『読み、書き、話す』の手段でさえおろそかになってしまいがちである。

『教育』とは、子どもが持っている能力を引き出し、生きていく実行力、意志を植えつけ、問題を乗り越える力を身につけさせることである。そして、知識とともに生活で必要な知恵を教えることも大切である。」

第25回教育講演会

参加者からは「現代社会の分析と具体的な教育への提案はとても参考になった」「とても美しい日本語で分かりやすく話されたので勉強になった」等の感想をいただきました。

講演会に引き続いて教育研究発表会が開催されました。

発表会は、分科会形式で行われ4つの領域に分かれて開催されました（下表参照）。発表は、平成17年度に福武教育振興財団から教育研究助成等を受けられた個人・グループの中から12組の方が、1年間の実践の成果、今後の課題・抱負等を発表されました。

なお、このたびの教育講演会および教育研究発表会を催すに当たりご協力いただきました関係の方々に厚くお礼申し上げます。

（下山）

第19回教育研究発表会(第1分科会の様子)

学力・人間力推進会議設立記念講演会

「今何故 学力・人間力の育成が求められているのか」
～岡山県での取り組み～

講師　東京大学大学院教授　市川伸一　先生

学力・人間力育成推進会議は、自治体、学校、地域、大学、民間企業などが一体となって、人間力の育成とその基礎となる学力の向上を目指し、岡山県におけるこれからの教育を推進していくために設立された研究組織です。

その設立を記念して8月27日、学力・人間力育成推進会議設立記念講演会が岡山プラザホテルにて開催され、教育関係者を中心として約330名の参加がありました。

講師には推進会議の顧問である、東京大学大学院教授の市川伸一先生を迎え、「今何故 学力・人間力の育成が求められているのか」という演題でご講演を頂きました。

先生はこれからの教育は学校力・教師力の強化による人間力の育成が必要であるということについて、プレゼンテーションに実際の授業風景のビデオを交え、わかりやすくお話をされました。

現在、推進会議では、2つのモデル地区を選考し、「もし、このような教育ができたら」という新しい教育のあり方（IFプラン）をベースに、実践活動を行っていただき、情報交換・意見交換等を行いながら、岡山県の学力・人間力を育てていくことを目指しております。

（八田）

第19回教育研究発表会プログラム

第1分科会〔英語活動・英語教育〕
- 藤井佐代子（岡山市立西小学校教育研究会）
- 名合　智子（モコ　イングリッシュセンター）
- 問田　雅美・Mark Blanton（ノートルダム清心学園　清心中学校）

第2分科会〔学級経営・学校経営等〕
- 小合　芳樹（岡山市立財田小学校）
- 西　幸代（倉敷市立福田南中学校）
- 三﨑　公澄（岡山県高梁市立宇治高等学校）

第3分科会〔IT・情報教育〕
- 石井　聡（岡山市立五城小学校）
- 尾島　正敏（豊洲学区いきいき子ども支援の会）
- 小野　耕三（岡山市立桑田中学校）

第4分科会〔国際理解・郷土学習〕
- 森　英志（岡山市立平島小学校）
- 山本　正（岡山県国際理解教育研究会）
- 今井　豊・廣畑　洋・谷許佐智子（岡山県海外教育文化研究会）

福武教育振興財団設立20周年記念

フィンランド教育事情調査に参加して

福武教育振興財団　常任理事　森崎岩之助

福武教育振興財団設立20周年記念事業として、はじめて遠くヨーロッパの国、フィンランドに総勢23名の調査団が派遣された。

それは、言うまでもなくOECD学力到達度調査（PISA）で世界第一位になったフィンランドの教育事情を調査し、我が国の教育改革に生かしたいと言う期待からである。

フィンランドでは、国家教育委員会を始め、小・中・高・大学等の現地調査を通してPISAで世界一になった取り組みの中から多くの教訓を得た。

世界一の要因として、ほとんどの人が最初にあげたのは、30年ほど前に能力別学校制度や習熟度別編成を廃止して、すべての子どもに均一平等な「総合制学校」制度にしたことだという。均一な生徒集団での学習より、色々な能力の生徒が教え合い、助け合って進める学習活動の方が相乗効果で学力はあがるという。同時に落ちこぼれをつくらない教育でレベルアップを図っている。

次に教師の資質・能力の高さがある。1970年代から教師の資格を修士以上とし、専門性を高めると共に実践力を重視した教員養成を行っている。子どもが目指したい職業の第一位が教師であるというのも羨ましい。

また、子どもの学習意欲の高さがあげられているが、それは「社会構成主義的な学習概念」が成功の秘訣だという。

そのほか、すべての教育が無償、テストと序列付けをなくし発達の視点に立った生徒評価、少人数学級など多くの努力の状況が見聞できた。現在のフィンランドにおける教育の成果は、長い間の関係者の努力と、それを支える社会的・文化的背景があって築くことが出来たに違いない。

教育制度も社会的背景も違う我が国でも、今回見聞したことは、工夫と努力次第で活用できることはいくらでもある。出来ることから、明日からの活動に生かすことが私たちの務めである。

小学校の授業風景（3年生）

平成18年度

福武文化活動助成を受けて

プティバレエスタジオ　代表　野瀬　裕子

「アウトリーチ」という言葉をご存知でしょうか。

「アウトリーチ」とは、芸術・文化を劇場で観ることができない方々にアーティスト自ら病院・施設・学校に出向き披露する活動のことで、プティバレエスタジオでは、2005年より岡山市を中心に老人福祉施設・養護施設等14箇所を訪問しています。

訪問先では、踊り手の熱い魂が観客に直接伝わることで、互いの心が共鳴し、「かけがえのない出会い」が生じます。そして「求めあう喜び」を得、「別れ」の時にはお互いの「いのち」の大切さを深くかみしめることになります。

2006年10月4日岡山市民会館で開催したBallet & musical「星の王子さま the little prince」は、こうした普段の活動を基に創（?）りました。原作者サン＝テグジュペリが一番伝えたかったこと「心で見なくてはものごとは見えない。肝心なことは目には見えない。」つまり、人間は見えることだけに執着すると命の大切さえも忘れてしまう恐ろしい人間に変貌してしまうということです。

だからこそ芸術は人間にとって大切な内面の充実を図る役割を果たしていかなければなりません。福武文化振興財団様のご支援により「星の王子さま」が開催され、年齢・性別を問わず多くの観客に受け入れられ、人々に勇気を与えることができたことに深く感謝致しますと共に、今後も「目に見えない大切なもの」を芸術のエネルギーを借りて社会へ発信していこうと思います。

星の王子さまより　第三幕キツネと王子さまのシーン